

平成30年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 旭 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成30年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

平成30年4月17日(火)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語A・B, 算数A・B, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語A・B, 数学A・B, 理科, 生徒質問紙)

4 本校の参加状況

① 国語A	154人	国語B	154人
② 数学A	154人	数学B	154人
③ 理科	155人		

5 留意事項

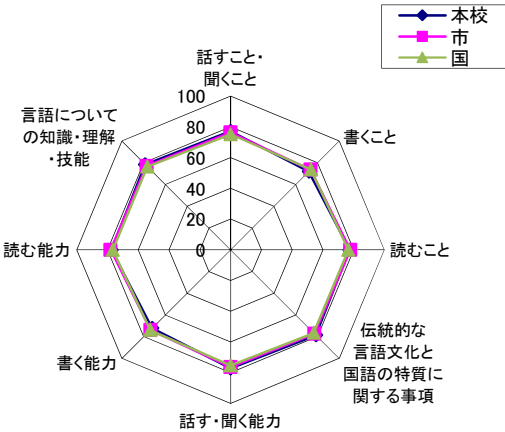
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部分であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

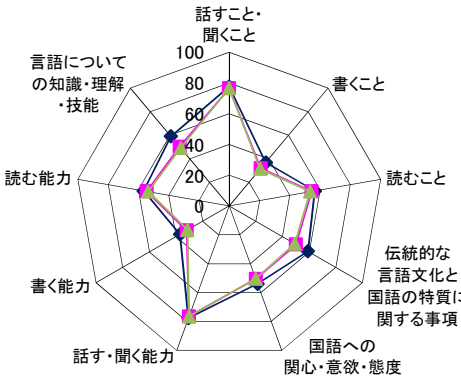
【国語A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.1	76.4	75.2
	書くこと	72.1	73.7	73.9
	読むこと	77.4	78.0	76.7
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	78.6	77.2	76.5
観点	国語への関心・意欲・態度			
	話す・聞く能力	77.1	76.4	75.2
	書く能力	72.1	73.7	73.9
	読む能力	77.4	78.0	76.7
	言語についての知識・理解・技能	78.6	77.2	76.5



【国語B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	話すこと・聞くこと	77.7	76.5	76.6
	書くこと	37.0	31.9	31.3
	読むこと	56.5	54.5	53.5
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	59.1	50.2	49.2
観点	国語への関心・意欲・態度	53.9	50.6	50.3
	話す・聞く能力	77.7	76.5	76.6
	書く能力	37.0	31.9	31.3
	読む能力	56.5	54.5	53.5
	言語についての知識・理解・技能	59.1	50.2	49.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

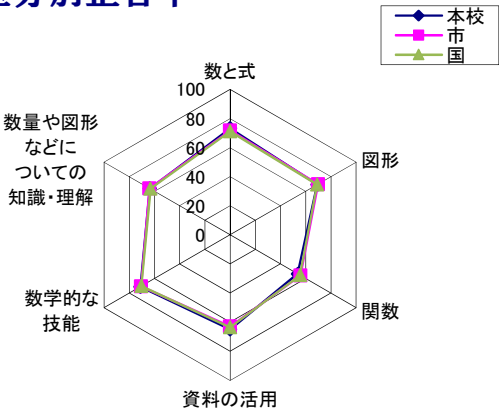
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○市の平均正答率と比べて、A問題で0.7ポイント、B問題で1.2ポイント高い結果が得られた。特に「発表をまとめる際の話の進め方を考える」問いの正答率は、全国平均より6.4ポイント高い。 ●「話し合いの話題や方向を捉える」問いが全国平均より1.7ポイント高いものの、無回答率が14.9%も占めていた。	・今後も、様々な話題について話し合う機会を積極的に設ける。 ・体験や知識を整理し、目的や相手、時間を意識して、話す内容や話し方を変えることができるように指導する。 ・相手の発言をしっかりと聞き、話の方向を捉えて自分の意見をまとめることができるようにする。
書くこと	○市の平均正答率と比べて、B問題で5.1ポイント高い結果が得られた。特に「相手に的確に伝わるように、あらすじを捉えて書く」問いの正答率は、全国平均より9.9ポイント高い。 ●市の平均正答率と比べて、A問題では1.6ポイント低い。特に「二つの意見の内容を一文で書き加える」問いが全国平均より3.6ポイント低い。	・今後も文章を推敲させる活動の際には、目的や意図、伝える相手などを意識させながら行っていく。 ・知識や体験をもとに、構成を工夫して、内容を膨らませて文章を書く活動を行う。 ・伝えたい事実や事柄が相手に分かりやすく伝わるためにはどうすればいいのか考えながら書く習慣を付けさせる。
読むこと	○市の平均正答率と比べて、B問題で2.0ポイント高い結果が得られた。特に「登場人物についての説明として適切なものを考える」問いの正答率は、全国平均より、5.5ポイント高い。 ●市の平均正答率と比べて、A問題では0.6ポイント低い。特に、「登場人物の描写に注意して読みとる」問いでは、全国平均より、0.3ポイント低い。	・登場人物の言葉や行動がどんな意味を持っているのかに注目して、書き手が伝えたい内容を客観的に捉えさせる学習活動を展開する。 ・人物や情景の効果的な描写に着目して、意識して作品を読み進めることができるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	○市の平均正答率と比べて、A問題で1.4ポイント、B問題で8.9ポイント高い結果が得られた。特に「歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す」問いの正答率が、全国平均よりも、12.3ポイント高い。 ●「適切な語句を選択する(彼はせきを切ったように話し始めた)」問いで、全国平均より3.2ポイント低い。	・語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使えるようにする。 ・目的に応じて文の成分の順序、構成を考えて適切な文が書けるようにする。 ・意味の分からない語句を自分で調べる習慣をつけさせる。 ・文脈に即した漢字をきちんと使えるように、普段から漢字の書き取り練習に取り組ませる。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

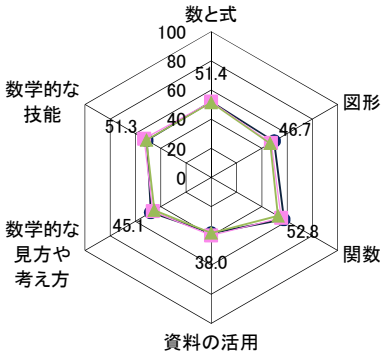
【数学A】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	73.2	71.7	71.1
	図形	69.2	69.7	69.1
	関数	53.7	55.8	55.5
	資料の活用	64.9	62.9	63.5
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方			
	数学的な技能	71.2	70.6	70.4
	数量や図形などについての知識・理解	63.7	64.0	63.3



【数学B】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	数と式	51.9	52.0	51.4
	図形	49.8	47.3	46.7
	関数	57.6	55.4	52.8
	資料の活用	38.1	39.8	38.0
観点	数学への関心・意欲・態度			
	数学的な見方や考え方	47.9	46.3	45.1
	数学的な技能	51.0	53.1	51.3
	数量や図形などについての知識・理解			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

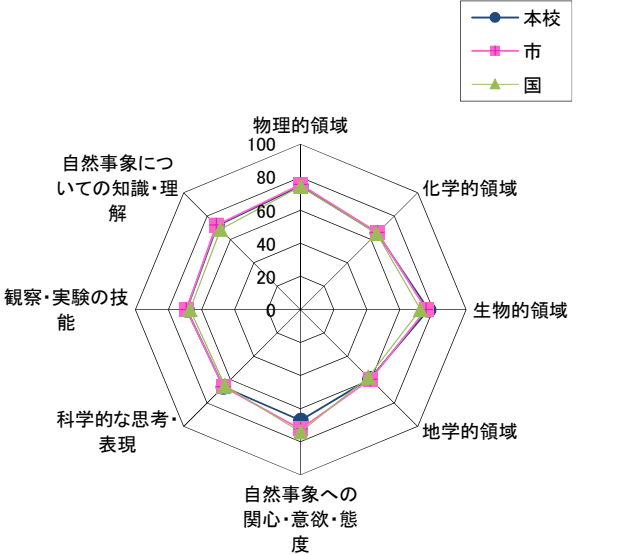
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	○A問題では県平均より1.5ポイント、全国平均より2.1ポイント高い。 ○B問題では全国平均より0.5ポイント高い。 ●B問題では県平均より0.1ポイント低い。	・計算技能向上のために、授業で行っているプリントを利用し、計算をする機会を増やす。
図形	○A問題では県平均より0.8ポイント、全国平均より0.1ポイント高い。 ○B問題では県平均より4.5ポイント、全国平均より3.2ポイント高い。 ●B問題4(3)の無回答率が県・全国よりも高い。 ●A問題12問中6問で県の平均よりも低い。	・平行四辺形や正方形など、それぞれの図形ごとの性質をしっかりと把握するだけでなく、問題を読み取った段階で思い出せるように意識させながら解かせる。
関数	○A問題では県平均より0.3ポイント高い。 ○B問題では県平均より4.3ポイント、全国平均より4.8ポイント高い。 ●A問題では全国平均より1.8ポイント低い。 ●A問題では8問中4問で県・全国平均を下回っており、全国平均をと比べると3～5ポイント低い。	・平均を下回った4問で、「比例 $y=ax$ のaの意味」、「反比例についてグラフと表を関連付けた理解」、「座標平面上に点の位置を示す」に関しては1学年で、「一次関数の意味」は2学年で学ぶ内容である。関数分野は、1年から継続的に学習する内容なので繰り返し学習させ、他領域でも既存の知識を使うことができるよう指導する。
資料の活用	○A問題では県平均より4ポイント、全国平均より1.4ポイント高い。 ○B問題では県平均より1.3ポイント、全国平均より0.1ポイント高い。 ●A問題では相対度数の変化の様子について正しい記述を選ぶ問題では、県平均より0.2ポイント、全国平均より1.2ポイント低い。	・相対度数に対する理解はあるが、その知識を活用する場面では課題があるので、相対度数を用いた問題に数多く取り組ませる。

宇都宮市立 旭 中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	物理的領域	74.8	75.7	74.4
	化学的領域	65.5	65.8	65.0
	生物的領域	77.3	75.9	72.5
	地学的領域	59.3	59.8	57.8
観点	自然事象への関心・意欲・態度	67.1	72.3	74.0
	科学的な思考・表現	66.1	66.0	64.9
	観察・実験の技能	69.0	69.1	67.0
	自然事象についての知識・理解	71.6	72.1	68.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物理的領域	○物理的領域では、国、市の平均値とほぼ同水準である。特に、電気の分野で電気用図記号やオームの法則の活用などは、正答率が国や市より高い。 ●音の速さの計算については、正答率が低い。	・公式を使つての計算問題については、今後も継続して演習問題などをくり返す。 ・物理的な領域でも、普段の生活と結び付けて関心を持たせていく工夫をする。
化学的領域	○化学的領域では、国、市の平均値とほぼ同水準である。濃度が異なる食塩水の問題では正答率が高い。 ●新たな疑問を見だし、その疑問を書く問題では無回答の割合が高い。	・実験をととして、器具の使い方や、薬品の性質などをきちんと理解させる。 ・記述問題が苦手な生徒が多いので、普段から文章で書いたり、発表したりする場面を増やす。
生物的領域	○生物的領域では、国、市の水準を上回っている。特に無脊椎動物の体の特徴の問題の正答率が高い。 ●「新たな実験において変わってしまう条件」を考える問題では、問題の趣旨をしっかりと理解していない解答がある。	・生物的領域は比較的良好だが、思考を要する問題に対して、苦手意識を持たせないように、授業でも様々な場面で各自に考えさせたり、話し合わせたりする場面を意識的に設ける。
地学的領域	○地学的領域では、国、市の水準とほぼ同水準である。特に地震のゆれの強さやゆれが始まるまでの時間などの知識は正答率が高い。 ●地震の波の伝わり方と、音の伝わり方を関連付ける問題ではやや正答率が低い。	・気象は身近な事象であるので、いろいろな機会を捉えて関心を持たせるようにする。 ・地震については関心が高く、知識も豊富であるので、苦手な生徒に対しても問題演習などをととして理解させる。

宇都宮市立 旭 中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 夢や目標をもっている肯定的割合は76.4%と全国より4%高いが、県よりは2%低い。全体的に前向きな姿勢が見られる。
- 学習に関して、自分で計画を立てて勉強している生徒の肯定割合は60%を超えており、自主学習の習慣が身に付いてきていると思われる。今後も引き続き支援を続けていきたい。
- 理科や数学の学習が社会に出たときに役に立つと答えており、それを生活の中で生かそうと考えている生徒の割合も多い。学校での実践が生きているといえる。
- 新聞を読む生徒は30%で県より3%低い。ニュースをテレビやインターネットで見る生徒は、92%と高い。気軽に利用できる情報機器に頼る傾向がある。
- 地域や社会で起こっている問題や出来事に関心があると答えた生徒は72.9%で、県や全国を大きく上回っている。地域・社会をよくするために何をすべきか考えており、ボランティア活動に参加している生徒の割合も大きい。本校のボランティア活動に対する取り組みの成果であると考えられる。教師の負担も大きいが、本校の伝統でもあり、誇りでもあるので、これからも積極的に推進していきたい。
- 自分で課題を立てたり、課題について自ら考え取り組もうとしている姿勢が多くみられる。総合的な学習の時間などで課題解決や発表を経験し、通常の授業でもその経験を生かしていると考えられる。話し合いを行うことで、自分の考えを深めたり広げたりできているという生徒が80%を越し、県や国よりも高い。今後も授業の中で考えを発表したり、話し合ったりする場面を多く取り入れる。
- 復習・予習をしている生徒の割合が65%と若干少ないことや、学習についての時間は比較的とっているが、内容が薄い部分もあるので、今後は内容を充実させるよう指導する。

宇都宮市立旭中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・家庭学習時間の確保	・家庭学習にプリントを組み合わせる。(学力向上ノートの活用) ・学習内容を自分で考え、きちんとまとめる。(自主学習ノートの活用)	・学習時間が増え、理解が進んだ。
・授業の充実	・学習課題を提示し、振り返りをさせる。ワークシートの活用。	・目的意識をもって学習行い、理解が深まった。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・基本的内容が定着していない。	・授業の内容を理解するために、繰り返し学習の徹底。	・休み時間、放課後等を活用した支援 ・適宜ワークシート・単元プリントを利用して、繰り返し学習を行う。